（第３種郵便物認可）　上毛新聞　2003年（平成15年）4月1日（火曜日）　社会　（26）

谷川岳の顔 肩ノ小屋へ

11年ぶり有人化

沼田署で山岳警備36年、馬場さん内定

「肩ノ小屋」は一九四一（昭和十六）年、国の補助で休憩所を併設、六八年には鉄骨平屋建ての小屋が増築され、九三年に現在の小屋が新築された。水上町によると、同小屋の有人化は九二年夏以来、十一年ぶりという。

県は二〇〇一年、増加する中高年登山者への対応や安全を見守っていくため、谷川連絡所（群馬県側）の要望により、「肩ノ小屋」の有人化を決定、昨年七月から増築工事が始まったが、同年八月、小屋の脇に九二年の建て替えの際に出た建築廃材山小屋で働こうと考えていたところ、「肩ノ小屋の管理人を打診された。

契約内容はまだ未定だが、春から秋の登山シーズンに、妻の組代さん（四九）とともに常駐する予定。冬山の登山者のために冬にも営業することで、地元や山岳関係者は「安心して山登りができる」と歓迎している。馬場さんは「登山道も増えるのでたくさん恩返ししたい」という。

馬場さん三十一日、沼田署で二十代から現場での職員にも運営を手伝ってもらうほか、収益の一部は山岳資料館設立の資金などのために寄付する予定だという。

谷川岳は最も積雪して、登山者から親しまれている山岳。今年は谷川岳を知り尽くした人。ぜひお願いしたいと依頼、馬場さんは「登山者に喜んでもらえるのが一番。管理人が良かったから来た行ってみようかな、と思えるようなすばらしい小屋にしたい」と意欲を見せている。

沼田署の女性警察官から任命された馬場さん

水上町は三十一日までに、谷川岳（一九七七メートル）山頂近くの避難小屋「肩ノ小屋」の管理人に、同日県警を退職した前沼田署谷川岳警備隊長の馬場勇さん（六四）を内定した。県から小屋の管理を委託される水上町は、「馬場さんは谷川岳を知り尽くした人。ぜひお願いしたい」と依頼、馬場さんは「登山者に喜んでもらえるのが一番。管理人が良かったから来た行ってみようかな、と思えるようなすばらしい小屋にしたい」と意欲を見せている。

「肩ノ小屋」は一九四一（昭和十六）年、鉄骨平屋建ての小屋が増築され、九三年に現在の小屋が新築された。水上町によると、同小屋の有人化は九二年夏以来、十一年ぶりという。

県は二〇〇一年、増加する中高年登山者への対応や安全を見守っていくため、谷川連絡所（群馬県側）の要望により、「肩ノ小屋」の有人化を決定、昨年七月から増築工事が始まったが、同年八月、小屋の脇に九二年の建て替えの際に出た建築廃材山小屋で働こうと考えていたところ、「肩ノ小屋の管理人を打診された。

契約内容はまだ未定だが、春から秋の登山シーズンに、妻の組代さん（四九）とともに常駐する予定。冬山の登山者のために冬にも営業することで、地元や山岳関係者は「安心して山登りができる」と歓迎している。馬場さんは「登山道も増えるのでたくさん恩返ししたい」という。

馬場さん三十一日、沼田署で二十代から現場での職員にも運営を手伝ってもらうほか、収益の一部は山岳資料館設立の資金などのために寄付する予定だという。

谷川岳は最も積雪して、登山者から親しまれている山岳。今年は谷川岳を知り尽くした人。ぜひお願いしたいと依頼、馬場さんは「登山者に喜んでもらえるのが一番。管理人が良かったから来た行ってみようかな、と思えるようなすばらしい小屋にしたい」と意欲を見せている。

神流町きょう誕生

神流町誕生へカウントダウン。万場町と中里村の合併による新生・神流町が、目誕生するが、三十一、日夜、中里村神ケ原の村活性化センターで「合併カウントダウンイベント」上りを祝った。合併は平成二入って最内第一号。

中里村・神ケ原お囃子（はやし）の会の軽やかなリズムで神流町の誕生を祝う＝中里村活性化センター

住民ら200人 カウントダウン イベント

イベントは岡町村の岡工会青年部などで組織した実行委員会（大塚英英委員長）が企画した。

午後八時に開会、村内の小中学生一五人が和太鼓を演奏したほか、両町村の若者たちでつくるロックバンドミクループが出演、さらに万場町鬼長の近藤真弘さんが参加した。

国道462号沿いに立てられた神流町誕生を祝うのぼり旗

合併カウントダウンイベントで開幕を宣言する宮前万場町長（左）と小林中里村長

両町村はイベントに先立って閉庁式を行い、百十四年の歴史に幕を下ろすとともに、町村長から辞令を交付され、宮前万場町長は「歴史ある両町村名が消えるのは寂しい思いもするが、若者たちも頑張って新たな町を盛り上げたい」と意欲を見せていめる。

イベントを企画した大塚委員長は「歴史ある両町村名が消えるのは寂しい思いもするが、若者たちも頑張って新たな町を盛り上げたい」と意欲を見せている。

ら三役も退任した。一日からは新町長が町長職務執行者を務

「群馬誉」の前橋・馬場酒造

126年の歴史に幕

後継者不足で

「群馬誉」（ぐんまほまれ）のブランドで知られる前橋市彩町の柿崎屋馬場酒造（馬場威社長）が一日、廃業した。後継者不足を理由に決断した。一八七七年創業の県内有数の老舗でブランド名に「群馬」が入っていることから、県内はもちろん、県外にも多くのファンがいた。馬場社長は「酒蔵者あっての酒造メーカー。ファンの皆さまに心から感謝したい」と受賞するなど、本県を代表する酒造メーカーの一つだった。

銘柄は「群馬誉」のほか、古酒の「又八」、生酒の「利根のせせらぎ」など。四代目の馬場社長によると、「群馬誉」の名称は「青雲の志」で、一九九九、二〇〇〇年という願いを込めた」という。

酒類鑑評会優秀賞をダブル受賞するなど、本県を代表する酒造メーカーの一つだった。

銘柄は「群馬誉」のほか、古酒の「又八」、生酒の「利根のせせらぎ」など。四代目の馬場社長によると、「群馬誉」の名称は「青雲の志」で、一九九九、二〇〇〇年という願いを込めた」という。

126年の歴史に幕を下ろした柿崎屋馬場酒造

日本酒の消費そのものが伸び悩んでいる中で、同酒造の売り上げは横ばい状態で、「群馬誉」などの商品は、一月にはすでに完売し、在庫はないという。県酒造組合（宝塚敬一組合長）によると、県内の酒造メーカーの廃業は、昨年十二月の岡与酒造（藤岡市会井）以来。毛塚組合長は「日本酒の売り上げは一九一減となっている。後継者不足という問題もある。老舗の馬場酒造の廃業は寂しいが、社長の健康を考慮しているのだと認識している」と話している。

選挙カーを自主規制

笠懸町議選

二十二日告示、二十七日に開票される笠懸町議選の立候補届け出期間は、二十一日、同町役場で会合を開き、選挙運動の運営などを申し合わせた。

今回の申し合わせは、現職数人によって提案され、提案者の「人による」会合には立候補者を定じて、会合には立候補十人と新人四人が出席、新人も賛同したことから、「自主規制」により、遊説に伴う騒音、事故防止などを図り、ミニ集会や街頭演説会を控えることで一致した。

「選挙中の心の運動」に改革することが狙いとされる。

大間々町議選（二十二日告示、二十七日投開票）で、「選挙中の心の運動」に改革することを申し合わせた。

同議会は前回の町議選で、選挙期間の初日と最終日を除く三日間で同様の自主規制を行ったが、「五日間通しで、今回も騒音や交通渋滞の防止が目的」で、携帯用マイクを使い政策を訴える街頭演説が選挙戦の中心になるそう。

大間々町議選でも

現職申し合わせ

遊説に伴う騒音、事故防止などを図り、ミニ集会や街頭演説会を控えることで一致した。

同議会は前回の町議選で、選挙期間の初日と最終日を除く三日間で同様の自主規制を行ったが、「五日間通しで、今回も騒音や交通渋滞の防止が目的」で、携帯用マイクを使い政策を訴える街頭演説が選挙戦の中心になるそう。

利根沼田森林組合きょう誕生

資産額が57%反対の2倍

新田町が合併アンケート

利根沼田森林組合（宮崎一郎代表）は三十一日、沼田市、昭和村の各森林組合と月夜野町、水上町、新治村、昭和村の各森林組合が合併して発足した。

組合員数は県内最多の一万九千人、組合員所有面積は県内最大の一万六千ヘクタールに達する。本部は沼田市西部地区森林組合の事務所に置く。

組合員数は三千三百人、組合員数は三千三百人、組合員林所有面積一万五千百五十ヘクタール、組合員数は要東部森林組合の二千七百人を合わせ、県内最大になる。新設合併で、月夜野町など四町村に連絡所を設置し、利根沼田森林組合の作業班はそのまま引き継ぐ。

合併の中心になる利根沼田中部地区森林組合は一九九七年、沼田市、白沢村、川場村の各森林組合が広域合併して発足した。

県警退職54人 別れを惜しむ

県警の二〇〇一年度退職者を見送る式典が三十一日、前橋市大手町の県警本部で行われ、五十四人が塩田茂本部長をほじめとする多くの職員の温かい拍手で送り出された。

庁内ロビーに本部長を先頭にした退職者たちは、県警音楽隊の演奏が響く中、本部庁舎の階段から出口まで一列にゆっくりと歩みながらかつての同僚とあいさつを交わすなど、それぞれ別れを惜んでいた。

「凶悪事件多かった」

青木次席検事 難任の会見

一日付で東京高検公判部事の青木静治氏などが三十一日記者会見し、前橋地検に転出する町儀地検次席検事は「昨年、月からの在任中を「凶悪事件が多かった」と総括、一事件を挙げればいろいろあるが、次から次に事件が起きて処理してきたことに尽きる」と述べた。

心に残った事件として、「ある町で起きた放火事件。犯人は、ゆっくりと、優しい流れになる」と、玉村の玉村橋になると、ゆったりした大河の印象を受ける。個人的に好きなのは大利根橋地点からの眺めですね。微妙な川幅のカーブと、広がりのある風景が最高です。

推進協によると、当面、本所玉村地区の「利根沼田中西部地区森林組合」の所属名は、七日開の縦開中興譜中し立てはなく、出資金は八千万円、組合員数三千三百人、組合員林所有面積一万五千百五十ヘクタール、組合員数は要東部森林組合の二千七百人を合わせ、県内最大になる。新設合併で、県内最大の一万九千ヘクタールに達する。本部は沼田市に置く。

野町など四町村に連絡所を設置し、利根沼田森林組合の作業班はそのまま引き継ぐ。

合併の中心になる利根沼田中部地区森林組合は一九九七年、沼田市、白沢村、川場村の各森林組合が広域合併して発足した。

県警退職54人 別れを惜しむ

県警の二〇〇一年度退職者を見送る式典が三十一日、前橋市大手町の県警本部で行われ、五十四人が塩田茂本部長をほじめとする多くの職員の温かい拍手で送り出された。

庁内ロビーに本部長を先頭にした退職者たちは、県警音楽隊の演奏が響く中、本部庁舎の階段から出口まで一列にゆっくりと歩みながらかつての同僚とあいさつを交わすなど、それぞれ別れを惜んでいた。

「凶悪事件多かった」

青木次席検事 難任の会見

一日付で東京高検公判部事の青木静治氏などが三十一日記者会見し、前橋地検に転出する町儀地検次席検事は「昨年、月からの在任中を「凶悪事件が多かった」と総括、一事件を挙げればいろいろあるが、次から次に事件が起きて処理してきたことに尽きる」と述べた。

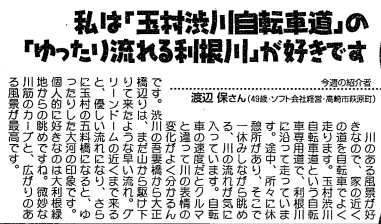
心に残った事件として、「ある町で起きた放火事件。犯人は、ゆっくりと、優しい流れになる」と、玉村の玉村橋になると、ゆったりした大河の印象を受ける。個人的に好きなのは大利根橋地点からの眺めですね。微妙な川幅のカーブと、広がりのある風景が最高です。

第1853回関東・中部・東北自治宝くじ
春のビッグボーナスくじ
1等・前後賞合わせて
1億円
1等6,000万円×2本・前後賞各2,000万円
抽せん日:4/15(火)
発売は4/14(月)まで
売り切れの場合もありますので、お早めにどうぞ。
この宝くじは、東京都を除く関東・中部・東北・北海道地方および三重県でお買い求めになれます。
●宝くじの収益金は、私たちの街の公共事業等に役立てられています。●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。
各1枚200円
発売 関東・中部・東北ブロック
1組20億円程度都市
宝くじ

オンデマンド印刷ならDips.A(ディップス朝日)
朝日印刷工業㈱ 前橋市元総社町67 ☎251-1212㈹
DIPS.A(ディップス朝日)では、美しいカラー印刷、モノクロ印刷を1部から、納品はやすく、バリアブルデータにも対応します。

郷土出版ご案内
■新世紀 ぐんま郷土史辞典 A5判 四・四頁 価1,000円 〔送料別〕
■群馬県歴史年表 A5判上製 価五四〇〇円
■評伝 高崎仏教 高崎文化研究会編 中島宏著 価二〇〇〇円
■野口哲哉 ぐんまの仏像 上・下 各A5判上製 価六七〇〇円
■上州路の民俗 民俗文化財調査報告書 第五集 松井茂著 価一〇〇〇円
■川場村史 資料編 第三巻 近世3 横倉甲子雄編 価四〇〇〇円
■日本の花T 創刊号 B5判上製 七二〇頁 価三〇〇〇円
■日本の花U 変形 二六頁 価三〇〇〇円
□この案内は毎月一日上毛新聞に掲載
□不明の点は朝日印刷にお問合せ

4月からスタート!
群馬県
オススメのぐんまのスポットを教えてください!
あまり知られてないけど、私たちの好奇心や安らぎを求める心を満足させてくれたり、生活に潤いや元気をくれたり・・・。
あなたが知っているぐんまの魅力をぜひ教えてください、ネッ。
好きです ぐんま キャンペーン
皆さんからの情報をお待ちしています
お名前・連絡先を明記してお送りください。
〒371・8570 県庁広報課「好きです ぐんま キャンペーン」係
☎027・226・2162 FAX027・243・3600



私は「玉村渋川自転車道」の「ゆったり流れる利根川」が好きです
今週の紹介者
渡辺 保さん（49歳・ソフト会社経営・高崎市萩原町）
で。渋川の玉村橋から大正橋辺りまで、まだ山から駆け下りて来たような早い流れ。グリーンドームの近くまで来ると、ゆったりとした流れになる。川の流れが気に入っています。自転車の速度だとクルマと違って川の美しさを堪能できます。

変化がよく分かるんです。川の表情が好きなので、家の近くを走ります。玉村渋川自転車道という自転車専用道で、利根川に沿って走っています。途中、所々に休憩所があり、そこで一休みしながら眺める。川の流れが気に入っています。自転車の速度だとクルマと違って川の美しさを堪能できます。

橋辺りは、まだ山から駆け下りて来たような早い流れ。グリーンドームの近くまで来ると、ゆったりとした流れになる。川の流れが気に入っています。自転車の速度だとクルマと違って川の美しさを堪能できます。

川のある風景が好きなので、家の近くを走ります。玉村渋川自転車道という自転車専用道で、利根川に沿って走っています。

本欄に掲載する情報を募集しています。〒371-8570 県庁広報課「好きです ぐんま キャンペーン」係。☎027-226-2162 FAX027-243-3600

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。